

おつかれさま

動画リンク：<https://youtu.be/SWPxMZjZSpw>

今回は「おつかれさま」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があります。
後半は少しだけ速く（＋２０％）なり、漢字に「ふりがな」はありません。
学習にお役立てください。

■私のこと

私の名前は佐藤です。私はレストランでちょうりしとしてはたっています。毎日、いろいろな料理を作ることがとても楽しく、やりがいを感じています。とくに、料理をお客さまによろこんでいただいたときは、たっせい感があります。
私は料理を始めてから、食材のえらび方やちょうり法を学び、今では多くのメニューを作ることができるようになりました。仕事が終わったあとに「おつかれさま」と言われると、がんばったことがみとめられたようで、うれしくなります。

「おつかれさま」という言葉は、私たちがのように毎日がんばっている人たちにとって、とても大切な言葉です。この言葉を使うことで、相手のどりよくをみとめ、かんしゃの気持ちを伝えることができます。これから、この言葉の意味や使い方について学んでいきましょう。

■「おつかれさま」のいみ

「おつかれさま」という言葉は、相手ががんばったあとに使う言葉です。この言葉は、相手のどりよくをねぎらい、かんしゃの気持ちを伝える時に使います。たとえば、長い時間はたったり、つらいことをのりこえたりした人に「おつかれさま」と言うことで、そのどりよくをみとめることができます。

「おつかれさま」を使うことで、相手ががんばったことに対して「ありがとう」や「よくがんばったね」という気持ちを伝えることができます。これは、ただのあいさつではなく、相手をねぎらう、かんしゃを示す大切な言葉です。

この言葉は、仕事や学校だけでなく、スポーツや日常生活でも使われます。たとえば、仕事のあとにどうりように「おつかれさまでした」と言ったり、友達といっしょに何かをたっせいしたあとに「おつかれさま！」と言ったりします。また、スポーツのしあいごにも「おつかれさま」と言うことがあります。

「おつかれさま」は、相手を大切に思う気持ちを伝える言葉です。この言葉を使うことで、まわりの人との関係がよりよくなります。相手にかんしゃの気持ちを伝え、みんなで気持ちよくすごすために、この言葉を使いましょう。

■「おつかれさま」の使われるばめん

「おつかれさま」という言葉は、いろいろなばめんで使うことができます。まず、仕事のあとに使われることが多いです。たとえば、一日の仕事が終わったときに、どうりょうに「おつかれさまでした」と言います。この言葉は、その日の仕事を終えたことをねぎらう意味があり、かんしゃの気持ちを伝えることができます。

また、グループで何かを終わらせたときにも「おつかれさま」を使います。たとえば、プロジェクトやイベントが終わったあとに、「みんな、おつかれさま！」と言って、チームメンバー全員のがんばりをねぎらいます。このように、グループでたっせいしたことをお互いにかんしゃすることができます。

スポーツのあとにもよく使われます。しあいが終わったあとに、チームメイトやたいせん相手に「しあいおつかれ！」と言います。これも、しあいを終えたことに対して、相手や仲間にかんしゃの気持ちを伝える言葉です。

このように、「おつかれさま」は、仕事や学校、スポーツなど、どんなばめんでも使える便利な言葉です。がんばった相手にかんしゃを伝えることで、よい関係を作ることができます。

■「おつかれさま」と「ごくろうさま」のちがい

「おつかれさま」と「ごくろうさま」は、どちらも相手のがんばりにかんしゃの気持ちを伝える言葉ですが、使うばめんが少しちがいます。

「おつかれさまです」は、だれにでも使うことができる言葉です。たとえば、どうりょうや友達、目上の人にも使えます。仕事が終わったときや、何かを終えたときに「おつかれさまでした」と言うことで、相手のどりよくをねぎらうことができます。

一方、「ごくろうさまです」は、目上の人が目下の人に使う言葉です。目上と目下とは、立場が上の人、下の人、といういみです。たとえば、上司が部下に対して「ごくろうさまです」と言う場合や、先生が生徒に対して使うことがふつうです。この言葉は、目上の人

が、相手のどりよくをねぎらうために使います。

このように、使い方をまちがえないように気をつけることが大切です。「おつかれさま」と「ごくろうさま」を正しく使い分けることで、相手に対するけいいを表すことができます。

■外国語でどう言うの？

「おつかれさま」という言葉は、日本語だけでなく、ほかの言語でも似たような意味で使われています。

英語では、「Good job!」や「Well done!」といった言葉が使われます。これらは、相手ががんばったことをみとめて、かんしゃの気持ちを伝える表現です。

また、「Thank you for your hard work!」という言い方もあります。これは、相手のどりよくに対してかんしゃを伝える言葉です。

フランス語では、「Bon travail!」と言います。これは「よい仕事をしましたね!」という意味です。フランス語でも、相手のどりをよくをねぎらうために使われる言葉です。

中国語では、「辛苦了!」と言います。この言葉は、相手ががんばったことに対してかんしゃを示す表現で、意味は「おつかれさまでした」とほぼ同じです。

このように、「おつかれさま」は他の言語でも、相手のどりをよくをねぎらう大事な言葉として世界中で使われています。

■日本の文化における「おつかれさま」

「おつかれさま」は、日本の文化においてとても大切な言葉です。日本では、相手のどりをよくをねぎらい、かんしゃの気持ちを伝えることがとても大事にされています。この言葉は、日常生活でよく使われます。

たとえば、会社ではたらいっているとき、仕事が終わったあとにどうりように「おつかれさまでした」と言うことで、相手をねぎらうことができます。また、学校では、クラスメイトが何かをたっせいしたあとに「おつかれさま」と言うことがあります。

さらに、「おつかれさま」は、友達同士でもカジュアルに使われることがあります。たとえば、遊んだあとや、スポーツを終えたあとに使うことで、楽しい時間をいっしょにすごしたことをかんしゃする気持ちを伝えることができます。

日本の文化では、相手を思いやることがとても大切にされています。この「おつかれさま」という言葉を使うことで、相手にかんしゃやねぎらいの気持ちを伝え、よい関係をつくることができるのです。

■「おつかれさま」の代わりに使える言葉

「おつかれさま」の他にも、相手のどりをよくにかんしゃを伝える言葉があります。たとえば、「ありがとう」という言葉は、日常的に使うことができ、かんしゃの気持ちをシンプルに伝えることができます。とくに、相手が手伝ってくれたときや、サポートしてくれたときに「ありがとう」と言うことで、相手の行動にかんしゃを示すことができます。

また、「よくがんばったね」という言葉も、相手のどりをよくをみとめる言葉として使うことができます。この言葉は、とくに成果が出たときや、大変なことをのりこえたときに使うとよいです。たとえば、テストを終えたあとや、スポーツのしあいに「よくがんばったね」と言うと、相手のどりをよくを強くみとめることができます。

他にも、親しい人に対しては「おつかれさま!」の代わりに「おつかれさん!」など、少しカジュアルな言い方をしてもよい場合があります。ばめんや相手によって、言葉を使い分けることで、さらにかんしゃの気持ちを上手に伝えることができます。

■「おつかれさま」をつかってみよう

「おつかれさま」を使うことで、日常生活の中でかんしゃの気持ちを伝えることができます。この言葉は、相手に対してやさしさを示す大切な言葉です。では、どんなときに「おつかれさま」を使えるでしょうか？

まず、仕事や学校が終わったあとに使ってみましょう。たとえば、仕事が終わったあとに「おつかれさまでした」とどうりように言ったり、学校で授業を終えたあと、友達に「おつかれさま」と言ってみてください。このように、身近な人にかんしゃの気持ちを伝えることができます。

また、家族にも使ってみましょう。たとえば、お母さんやお父さんが一日忙しくはたらいたあとや家事をしたあとに「おつかれさま」と言うことで、かんしゃの気持ちを伝えられます。家族との関係がよりよくなるきっかけになります。

さらに、スポーツをしているときにも使えます。れんしゅうのあとやしいごに仲間「おつかれさま！」と言うことで、どりよくをみとめ、かんしゃの気持ちを伝えることができます。

「おつかれさま」を使うことで、相手のがんばりをみとめることができ、気持ちよくすごすことができます。ぜひ、日常の中で使ってみてください。

「おつかれさま」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Easy Japanese listening SUSHI